



NO
WAR



園通信 令和7年10月1日 第7号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

暑さ寒さも彼岸までといいますが、今年はようやく猛暑が収まってきた印象です。

これからは日中が過ごしやすい気温となり、運動会へ向けて「スポーツの秋」といわれるように運動が盛んになる時期です。当園では、たくさん運動遊びをすることにより、「食欲の秋」の中でたくさん食べ、しっかり眠り、丈夫で健康な体作りをしていこうと思います。

さて、10月の大きなめあては「努力」です。前述のように、運動会へ向けて子どもたちはたくさん体を動かして遊びます。子どもたちにはそれぞれ自分のめあてをつくって取り組んでいるわけですが、そのめあてには「努力」をしないと達成できません。楽しんで取り組む中で、子どもは「もっとはやくはしりたい」、「もっときれいにまわりたい」と自分でイメージをつくり、それに向かって努力します。ただ、その努力は、自分自身は気づかないものなのです。夢中になって取り組むことで、本人は努力していると思っていないほど遊び込んでいるからです。そのような遊び込める理想的な環境に近づけるように、全職員で子どもたちと関わっていきたいと思います。

＜これからの予定＞

10月 6日(月) わくわくおたのしみ遠足(れもんぐみ)📦

身体計測週間(～10日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ)

10月14日(火) 身体計測週間(～17日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ)

10月24日(金) 誕生会

10月25日(土) お弁当日📦

10月28日(火) 健康診断



※ 11月 8日(土) 運動会📦

※ 11月15日(土) 運動会予備日📦

(11/15 雨天時は、11/18(火)に3歳未満児クラス、11/20(木)に3歳以上児クラスの日程で開催します)

中学2年生職場体験学習

9月5日(金)、滝尾中学校の2年生5名が職場体験学習に来ました。久しぶりの実習生という感じだったので、園児たちはすぐに生徒さんの周りに集まり、手をつないだり、ちょっかいを出してみたりと、とても嬉しそうな様子でした。その生徒さんたちは、元気な挨拶から始まり、職員だけでなく保護者の皆さんにもしっかりとあいさつしていた印象がありました。

午後、保育教諭とのカンファレンスの時間を設けました。その中で、保育教諭になるために必要な資格や、どのようなスキルを身に付けておくのと良いかなど、積極的な姿勢が現れていて頼もしさを感じました。このような若者がたくさん増えれば良いと感じたひとときでした。



1階テラスの光景です



かりんぐみの様子を観察しています



カンファレンスの様子です

＜令和7年度 1学期アンケートの結果と回答について＞

先日ご回答いただきました1学期のアンケートにつきまして、結果と回答をお知らせいたします。今回も「①とてもそう思う」、「②そう思う」という肯定的な回答をたくさんいただいています。なかでも2番と4番の項目については10割の肯定的な回答をいただきました。お子さんが園生活を生き生きと過ごし、ご家庭と地域、園との相互での支え合いによって子どももんなか社会を形成していているという評価をしていただいているといえることでしょう。これからも職員一同気を引き締めて職務にあたる所存です。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。（世帯数63、回答数37、回収率58.7%）

A：とてもそう思う B：そう思う C：あまり思わない D：全く思わない E：わからない

	項目	A	B	C	D	E
1	お子さんは、園に行くことを楽しみにしている	18.9	70.3	8.1	2.7	0
2	お子さんは、園生活や遊び、行事等に興味・関心をもって取り組み、生き生きとしている	56.8	43.2	0	0	0
3	お子さんは、家族や地域の人、職員などに、よくあいさつをしている	24.3	48.6	13.5	5.4	8.1
4	お子さんは、家庭・地域・園相互の支え合いにより健やかに育っている	48.6	51.4	0	0	0
5	園では、体験活動を重視して一人一人が育ち合う教育・保育が展開されている	37.8	48.6	5.4	2.7	5.4
6	園舎内外が整備されており、教育・保育環境の工夫に努めている	37.8	54.1	8.1	0	0
7	園の施設は、園児の安全に配慮したものになっている	32.4	62.2	5.4	0	0
8	園は、保護者が子どもの様々な様子を写真やおたより、行事に参加する機会の確保等で子どもの成長や発達等に気付く機会をつくっている	45.9	45.9	8.1	0	0
9	園は、教育・保育方針や園児の様子を園だよりや保育参観、SNS等で、積極的に情報提供している	35.1	51.4	8.1	5.4	0
10	園は、子育てに関する悩みや相談に丁寧に対応してくれる	45.9	37.8	8.1	2.7	5.4
11	園は、地域との連携を行い、理解や協力が得られるようにしている	21.6	37.8	10.8	2.7	27
12	地域の子育て家庭に対して、子育てに関するサロンや育児相談に応じるなど、子育て支援をしている	13.5	29.7	10.8	0	45.9
13	保育参観の時期は、適切である	18.9	64.9	5.4	0	13.5
14	保育参観のプログラムの内容は、適切である	29.7	51.4	5.4	0	13.5
15	保護者保育体験の時期は、適切である	13.5	56.8	0	0	29.7

これより、【意見・感想】を紹介します。皆様よりとても温かい感想を寄せていただいています。

前号で保育体験の感想を紹介しましたのでその分は割愛いたします。

また、いくつかの改善が必要なご意見をいただいております。現時点で回答できる分をここにお伝えいたします。

まずは、延長保育に関しまして、基本的には人件費と水道光熱費、保育材料費の予算を組んでいます。おやつは、「給食」扱いとなり、給食は持ち帰ることができません。お子さんが、「たべたい」という場合は、食べてからの降園で結構です。

また、クラス前のお知らせの掲示につきましては、できる限り「はいチーズ！ノート」でも配信するようにし、変更・修正後の内容も配信して、相違のないように二重チェックしてまいります。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

今回いただいたご感想やご意見は、全職員で周知するとともに対象となる職員には注意を促しており、改善に向けて取り組んでいます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

コラム 72：続・子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

今回は、前回説明することができなかった、「子どもが見る大人の世界」ということを踏まえて、実際に子どもたちと接する私たち大人が気をつけたいポイントについて説明してみたいと思います。

まず最初のポイントは、「子どもと目と目を合わせて話すこと」です。特に年齢の低い乳児の場合、子どもたちは安心感や信頼感をスキンシップやアイコンタクトから感じ取り、そのことが子どもの育ちを支える情緒の安定にもつながっています。大人でもそうですが、相手がこちらの目を見て話を聞いてくれないと話を理解してくれているかどうか心配になります。幼い子どもは不安が強いと泣きだしてしまうこともあります。したがって子どもと話す場合には、しっかり目と目を合わせてアイコンタクトを取ることが大切です。

ここでひとつ気をつけておかなければならないことは、発達障害や自閉的傾向のある子どもの場合には、目を合わせることが辛くてできない場合があります。その時は子どもを怖がらせないように目と目を合わせることは避け、子どもが自分から目を合わせてくれるようになるまでゆっくり待つようにします。

次のポイントは、「子どもの目線に合わせて話すこと」です。目線の高さについては、子どもたちの縦の方向の視野は70度、横の水平方向の視野は、90度と大人に比べ狭くなっています。そのため、子どもたちと関わる時には、子どもの視野に入るように配慮することが大切です。

子どもは頭の上から言葉をかけられるとその声に威圧感を感じてしまい信頼感を作ることが難しくなります。そこで、子どもの話を聞く時や話しかける時には、子どもの目線まで屈んで子どもと目を合わせて話をしてあげるようにします。

三番目のポイントは、「話をする時の目の表情にも子どもが見ていることを意識すること」です。「3歳児が大人の顔のどの部分に注目しているか」を追及した研究によると「目、口、鼻」のうち最も注視する時間が長かったのは「目」であったといえます。子どもとの信頼関係を作るのに笑顔がとても大切だと言われています。この笑顔の場合にも、よく口角を上げることが大切と言いますが、3歳児の場合は「目の表情」を柔らかくすることの方が大人の心が伝わりやすくなると思います。「目は心の窓」とも言われていますので、心を表すには目の働きがとても大切になるようです。子どもと接しながらつい辛いことを気にしていたり、心配事を抱えていたり、疲れていたりするとその微妙なニュアンスが目を通して子どもに伝わってしまうこともありますので、子どもと向き合うときには十分に心の状態を整えておくことが大切です。

四番目のポイントは、「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わることに気を配ること」です。私たちが表情豊かに子どもと接している時と、無表情で接している時の子どもの反応は歴然と差が出てきます。無表情で子どもに接していると子どもは不安を感じて泣き出してしまうこともあります。大人の表情はアイコンタクトやスキンシップと同じ様に子どもに愛情や安心感を与えます。子どもたちには私たち大人が肯定的に受け止めてもらえるように感情豊かな表情で接することが大切なのです。

また、子どもに対する表情だけでなく、他の人やものに対する表情も子どもが見ていますので、気をつける必要があります。1歳頃からは社会的参照という能力があらわれてきますので、他の人に対して大人が警戒していると子どももその警戒を感じてしまうので注意が必要です。

五番目のポイントは、「表情と感情を一致させること」です。子どもは生後8カ月を越えると人の表情に対する理解が進み、自分の行動の良し悪しを大人の表情などから読み取ることができるようになります。そのため、子どもを褒める時、叱る時などにはその感情に見合った表情をすることが大切です。感情と表情が一致していなければ、子どもは混乱し、気持ちが伝わり難くなります。ストレートなわかりやすい表現が大切なのです。

最後の六番目のポイントは、「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」ということです。当たり前のことですが、子どもたちのいる前で、仕事や家庭の愚痴や他の人の悪口などを話すことは避けなければなりません。子どもたちは5歳になると神経系統の8割が成長し、言葉が理解できなくても話している大人の表情などから話の内容のニュアンスを理解すると言われています。したがって子どもの近くで子どもに聞かせることができないような話はしないように気を付けなければなりません

一方、大切なことは子どもの目を見て話しかけると、言葉は分からなくても伝えたいことは子どもが感じ取って、大人の気持ちに合わせて笑ったり喜んだりします。感受性豊かな子どもの成長には、愛情に満ちた大人の言葉が大切です。それらの言葉に出会うことによって子どもは心豊かに育っていくのです。



子どもは、五感すべてを使って自分の周りの世界、大人の世界を理解しようとしていることがよくわかります。また、視野が狭いことに加え、視力の発達もゆっくりだと言います。大人には見えていても、子どもにははっきり見えていないことが多々あります。キッドワールドの保育の指針、「子どもの目線で」をしっかり意識した関わりを毎日心掛けていきたいと思います。

